

# 産総研一般公開，地質分野有志企画「ジオドクトル 2012」コース

住田達哉<sup>1)</sup>・長 郁夫<sup>2)</sup>・中井未里<sup>2)</sup>・古川竜太<sup>1)</sup>・伊藤 忍<sup>1)</sup>・竹内圭史<sup>1)</sup>・巖谷敏光<sup>1)</sup>・七山 太<sup>1)</sup>・宮川歩夢<sup>1)</sup>・高橋雅紀<sup>1)</sup>・高橋美紀<sup>2)</sup>・安藤亮輔<sup>2)</sup>・水垣桂子<sup>3)</sup>・柳澤教雄<sup>3)</sup>・兼子尚知<sup>4)</sup>・佐藤卓見<sup>4)</sup>・渡辺真人<sup>4)</sup>・及川輝樹<sup>4)</sup>・今西和俊<sup>4)</sup>・芝原暁彦<sup>4)</sup>・吉川秀樹<sup>5)</sup>・竹原淳一<sup>6)</sup>・池津宏道<sup>6)</sup>・高橋美江<sup>1)</sup>・石塚吉浩<sup>1)</sup>・山崎誠子<sup>1)</sup>・廣田明成<sup>1)</sup>・大石雅之<sup>1)</sup>・西来邦章<sup>1)</sup>・宝田晋治<sup>1)</sup>・佐藤大介<sup>1)</sup>・尾崎正紀<sup>1)</sup>・松浦浩久<sup>1)</sup>・青矢睦月<sup>1)</sup> 8)・内野隆之<sup>1)</sup>・植木岳雪<sup>1)</sup>・斎藤 眞<sup>1)</sup>・森尻理恵<sup>1)</sup>・西岡芳晴<sup>1)</sup>・内藤一樹<sup>1)</sup>・坂寄裕代<sup>1)</sup>・野々垣 Annie 淑恵<sup>1)</sup>・酒井キミ子<sup>1)</sup>・長津樹理<sup>1)</sup>・中川 充<sup>1)</sup>・宮城磯治<sup>1)</sup>・山口珠美<sup>1)</sup>・大坪 誠<sup>1)</sup>・武田直人<sup>2)</sup>・北島弘子<sup>2)</sup>・桑原保人<sup>2)</sup>・佐藤隆司<sup>2)</sup>・阿部信太郎<sup>2)</sup>・行谷佑一<sup>2)</sup>・落 唯史<sup>2)</sup>・加瀬祐子<sup>2)</sup>・竿本英貴<sup>2)</sup>・林田拓己<sup>2)</sup>・吉岡真弓<sup>3)</sup>・内田洋平<sup>3)</sup>・安川香澄<sup>3)</sup>・阪口圭一<sup>3)</sup>・古澤みどり<sup>3)</sup>・中山京子<sup>3)</sup>・大和田 朗<sup>4)</sup>・福田和幸<sup>4)</sup>・平林恵理<sup>4)</sup>・伏島祐一郎<sup>7)</sup>・吉川敏之<sup>7)</sup>

2012年も、一般公開における地質分野ブースの有志企画「ジオドクトル」コースを行いました。目的は、「一般公開に来て下さる市民の方々に地質関連ブースを重点的に回って頂き、地質に関する興味を持って頂くこと」および「参加者の感想を頂き、それをフィードバックさせてより良い一般公開展示を目指す」ためです。参加者の方々には、スタンプラリー風に、地質関連のブースを回って頂き、ブース独自の「フィールドノート」と称する資料やクイズ、自分で割った石等を集め、最後に感想・アンケートに答えて頂くと、「ジオドクトル 2012」の証明書(第1図)がプレゼントされます。

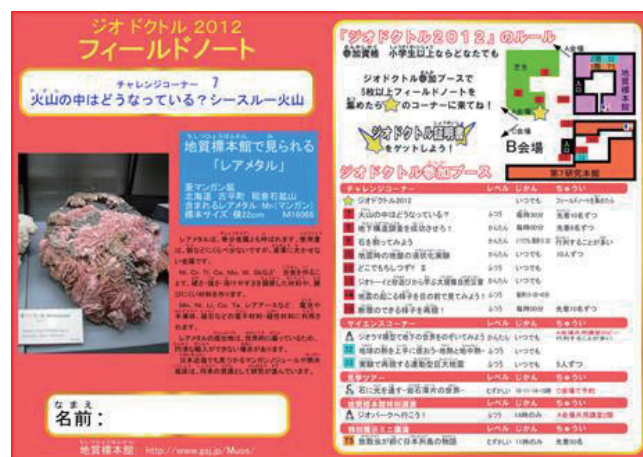
2012年の証明書(第1図)とフィールドノートの表紙



第1図 ジオドクトル 2012 証明書のデザイン。参加者の名前をひらがなで書き込み、名刺プリンターで印刷してお渡します。

(第2図)に用いた標本の写真は、海底資源の見込まれる4海域の大陸棚延伸が2012年の春に大陸棚限界委員会にて認められたことや、2010年のレアアース禁輸問題に関係して、「地質標本館で見られるレアメタル」のシリーズにしました。フィールドノート表紙は、ブースごとに標本を替えて作成しました。右側には、地質分野ブースが集まるBブロックの簡略地図を設けて、来場者の案内に役立てて頂く意図があります。

この企画も2009年から開始して早4回目を迎える(住田ほか、2009, 2010, 2011)ののですが、少しずつ産総研内での認知度も上がり、2012年は、これまで世話人を務めた住田に加えてジオドクトルブースを直接手伝って



第2図 フィールドノートの表紙の一例。

1) 産総研 地質情報研究部門  
2) 産総研 活断層・地震研究センター  
3) 産総研 地圏資源環境研究部門  
4) 産総研 地質標本館  
5) 産総研 IBEC センター  
6) 産総研 第七研究業務推進室  
7) 産総研 地質調査情報センター  
8) 現: 徳島大学

キーワード: アウトリーチ活動, 一般公開, スタンプラリー, アンケート, ジオドクトル 2012

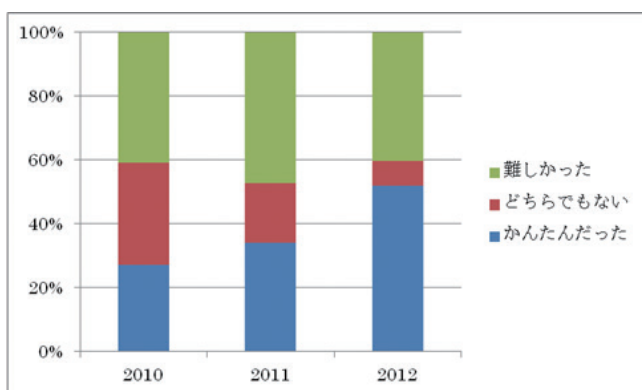
くれる2名の有志(長・中井)が現れました。長・中井の提案により、Bブロックの案内看板を作成したりフィールドノート表紙の案内情報を充実させたりしたことは、今後にもつながる大きな進展でした。案内看板や案内情報には、場所の情報だけでなく、ブースの難易度を示すレベルのほか実験や解説の始まる時間および注意点を示しています(第2図)。

ブースの難易度表示は、2011年までの参加者およびその保護者からのアンケートで要望されていたものです(住田, 2012)。かんたん:小学生低学年, ふつう:小学生高学年, むずかしい:中学生, と各ブース担当者は、その対象となる学年を意識して展示パネルやフィールドノートなどを作成しています。

産総研の一般公開は、イベントやブースの数が非常に多いことから、来場者の方が場所に迷ってしまい案内を希望されることがあります。2011年からBブロックの総合案内所の役割を兼ねており、ジオドクトル関係のブース担当者には、何か分からないことがある来場者をジオドクトルブースに促すように伝えています。しかし、ジオドクトルブース担当の住田と長が、授乳室(サイエンス・スクエア内)を把握していなかったなど、より良い案内に向けて改善すべきことがまだまだあると実感しました。

参加者の方々には、2011年まではブースごとに配布されたフィールドノートをバラバラのまま持ち帰って頂きましたが、2012年はレールファイルをお配りして、集めたフィールドノートが一つの冊子になるようにしました。このレールファイルには、名刺入れもついているため、証明書も取めることができます。これまで以上に、子供たちがお家でフィールドノートを再び開いて見る機会が増えることを期待しています。

さて、「ジオドクトル2012」取得者ですが、2011年



第3図 小学生向けアンケートでの難易度に関する感想の推移。各年の母数は、2010:44名, 2011:53名, 2012:52名。

よりさらに数を伸ばして74名になりました。この4年の推移をみると、28→53→62→74名となります。特筆すべきは、ジオドクトルコース体験のリピーターが初めて現れたことで、9名のリピーターを確認しました。また、大学生の参加者が例年になく多く、9名にもなりました。その中には、将来の理科教員を目指している方もいました。

アンケートは、「ジオドクトル」に挑戦する子供たちや若者のみならず、保護者の方にもご協力頂き、総計で104名の方から貴重なご意見を頂きました。小学生向けのアンケートでは、ここ3年間、なるべく設問を変えずに選択式のアンケートを採用しています。一例として難易度に関する感想の推移を第3図に示します。内容が難しかったという割合はあまり変化しませんが、簡単だったという割合が年々増えて、どちらでもないという感想が減っています。ブース担当者の解説能力の向上のほか、対象とする相手を意識して展示内容、展示パネルおよびフィールドノートを年々改善した結果、興味を持って臨む子供たちの理解度が高まったものと思われます。これからも、この方向性を維持しつつ、より良いアウトリーチ活動になるよう、改善を重ねたいと思います。

**謝辞:** ジオ君の使用に関して、河村幸男さん、川畑 晶さんにご協力を頂きました。地質標本館で見られるレアメタルの標本の選定および解説に関して、金子信行さんにアドバイスを頂きました。証明書取得者に差し上げた記念品(マンガン団塊)の標本提供および解説の作成と写真の提供において、利光誠一(地質標本館館長)、荒井晃作さん、板木拓也さんにご協力を頂きました。記念品の準備およびジオドクトルの案内看板の修正に佐久間仁美さん、佐藤美子さんにお手伝い頂きました。また、本企画の実現に際しては、各研究部門、地質調査情報センター、地質標本館、第七研究業務推進室および広報部等、著者に名を連ねないたくさんの方々にご協力を賜りました。ありがとうございました。

## 文献

住田達哉・伊藤順一・名和一成・宮地良典・七山 太・高田 亮・伊藤 忍・吉川秀樹・大和田 朗・佐藤卓見・福田和幸・中澤都子・今泉博之・今西和俊(2009)地質分野有志企画「ジオドクトル 2009」コース。GSJ ニュースレター, no. 59, 6-6.

住田達哉・伊藤順一・名和一成・宮地良典・七山 太・高田 亮・伊藤 忍・吉川秀樹・大和田朗・佐藤卓見・福田和幸・

中澤都子・今泉博之・今西和俊（2010）産総研一般公開，地質分野有志企画「ジオドクトル 2009」コース，地質ニュース，no. 671，8-12.

住田達哉・伏島祐一郎・古川竜太・森尻理恵・伊藤順一・小松原琢・七山太・伊藤忍・岡田真介・竹内圭史・及川輝樹・西岡芳晴・関陽児・佐藤大介・尾崎正紀・山崎徹・内野隆之・康義英・奥山康子・船津貴弘・中尾信典・今西和俊・桑原保人・吉見雅行・竹原淳一・芝原暁彦・古谷美智明・兼子尚知・大和田朗・中澤努・佐藤卓見・吉川秀樹・菅原義明・野田篤（2011）2. 「ジオドクトル 2011」. GSJ ニュースレター，no. 84，2-3.

住田達哉（2012）産総研一般公開における「ジオドクトル 2011」—アンケート報告—. GSJ 地質ニュース，1，205-212.

---

SUMITA Tatsuya, CHOU Ikuo, NAKAI Misato, FURUKAWA Ryuta, ITO Shinobu, TAKEUCHI Keiji, IWAYA Toshimitsu, NANAYAMA Futoshi, MIYAKAWA Ayumu, TAKAHASHI Masaki, TAKAHASHI Miki, ANDO Ryosuke, MIZUGAKI Keiko, YANAGISAWA Norio, KANEKO Naotomo, SATO Takumi, WATANABE Mahito, OIKAWA Teruki, IMANISHI Kazutoshi, SHIBAHARA Akihiko, YOSHIKAWA Hideki, TAKEHARA Junichi, IKEDU Hiromichi, TAKAHASHI Yoshie, ISHIZUKA Yoshihiro, YAMASAKI Seiko, HIROTA Akinari, OISHI Masayuki, NISHIKI Kuniaki, TAKARADA Shinji, SATO Daisuke, OZAKI Masanori, MATSUURA Hirohisa, AOYA Mutsuki, UCHINO Takayuki, UEKI Takeyuki, SAITO Makoto, MORIJIRI Rie, NISHIOKA Yoshiharu, NAITO Kazuki, SAKAYORI Yasuyo, NONOGAKI Y. Annie, SAKAI Kimiko, NAGATSU Juri, NAKAGAWA Mitsuru, MIYAGI Isoji, YAMAGUCHI Tamami, OTSUBO Makoto, TAKEDA Naoto, KITAJIMA Hiroko, KUWAHARA Yasuto, SATOH Takashi, ABE Shintarou, NAMEGAYA Yuichi, OCHI Tadafumi, KASE Yuko, SAOMOTO Hidetaka, HAYASHIDA Takumi, YOSHIOKA Mayumi, UCHIDA Youhei, YASUKAWA Kasumi, SAKAGUCHI Keiichi, FURUSAWA Midori, NAKAYAMA Kyoko, OWADA Akira, FUKUDA Kazuyuki, HIRABAYASHI Eri, FUSEJIMA Yuichiro and YOSHIKAWA Toshiyuki (2013) "Geo-Doctor 2012" designed by voluntary geoscientists in AIST open house.

（受付：2012年9月5日）